

令和6年7月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

売上は、製造業においては例年並みとの報告が多いが、非製造業においては、物価高や異常な猛暑の影響で減少したとの報告が多い。また、原材料・エネルギー価格の高騰に加え、人件費や輸送費の上昇により収益の改善は見られず、7月期全体の景況DI値はほぼ横這いとなった。

深刻化している人手不足は事業経営に大きな影響を及ぼしており、さらに、最低賃金の大幅な引き上げが収益を悪化させると危惧する報告も寄せられており、先行きへの不安感が増している。

山口県の主要指標DI値（令和6年7月末現在）

※DI値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）
	前年同月比は、好転：8.8% 悪化：32.5% DI値：▲23.7% ポイント
売上高	（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI値〉）
	前年同月比は、増加：22.5% 減少：27.5% DI値：▲5.0% ポイント
収益状況	（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）
	前年同月比は、好転：10.0% 悪化：30.0% DI値：▲20.0% ポイント

山口県の業種別DI値（業界の景況）（令和6年7月末現在）

				
30以上	30未満～ 10以上	10未満～ ▲10以上	▲10未満～ ▲30以上	▲30未満

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲50.0	0.0	▲100.0	0.0	▲66.7	12.5	▲33.3	▲31.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲20.0	▲57.1	0.0	9.1	▲45.5	14.3	▲100.0	▲18.8
							

全 体
▲23.7


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	<p>猛暑により外出を控える傾向で、ケーキや生菓子類の持ち歩きが困難なこともあり、菓子の買い控えが続いている。7月26日、もち米の契約栽培についてJAと契約調印式を実施した。米の価格が上昇する中で、もち米は前年の金額で契約を締結することができ安心している。</p>	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	<p>学校給食の新調理場新設に伴い製造数が減少したため、売上が減少した。雇用情勢の厳しさや収益状況が悪化しているため、最低賃金の上昇率を抑えてほしい。</p>	パン・菓子製造業 下関市
	<p>漁業者の減少が止まらない。今月、老舗鯨加工・卸売の地場最大手が、破産申請をしたことにショックを感じている。漁業者及び関連業者の減少が止まらない。後継者に情熱を持った若手の力が求められる。日本食の良さを国民に知ってもらう対策の実行が求められる。</p>	水産食料品製造業 長門市
	<p>コロナが5類移行となり催事等が行われるようになって、関連した商品を取り扱っている企業は、少しずつコロナ前に戻ってきているようだが、円安の影響により取り扱う商品に変化が出てきている。夏休みに入り少しずつ旅行等での人の動きもあったようだが、旅行客が購入するものと組合員が扱うものが違うこともあり、それ程売上に反映されていないようである。</p>	水産食料品製造業 下関市
	<p>以前勤めていた1人が組合員となり、業務内容も熟知しておりとても重宝している。一人欠勤するだけですぐシワ寄せがくるような状況では長続きはしないと思い、水曜日の弁当販売を止めて完全週休二日制とした。売上は減少するが、組合員の現状を考えると英断だったと思う。出勤は週に4日までとし、無理をせず少しでも長く続けられるよう努力していきたい。</p>	食料品製造業
	<p>7月の売上については例年並みとなったが、異常な高温による危険な状態が続き、屋外作業について支障が出てきており、早急な対策が必要となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げをかたくなに拒否するところもあり、農業者には原価割れの状況が続いている。地球温暖化対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入など、水素循環型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。また、日本の発電量に占める化石燃料の利用率約70%という数値も国際社会的にみても異常に高いので、早急に自然エネルギーの利用と原子力発電の利用を70%にさせるなどの改善が必要である。ロシアがウクライナに侵攻して2年以上が経過したが、ウクライナにとって、状</p>	精穀・製粉業

	況悪化の情報が伝わるなど、中東情勢の悪化に伴う世界情勢が混沌として、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。国際的な原油価格が上昇し、それに伴って肥料価格が前年比 160% アップという驚異的な結果となっている。政府の原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、特に、ガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。	
繊維工業	技術の継承のため従業員を増やした。業界の受注量は安定しており組合員も安定した経営が出来ているが、先行きはわからない。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	組合員の平均売上額は、令和5年7月と比べ 5% の減少。住宅需要の不振は依然として続き、売行きが低調。設備の操業度も低下の状況。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	7月は、昨年なかった物件が取れて工場も潤ったが、途中から受注が止まり、8月の売上が心配である。	印刷業 山口市
	日経平均株価が初の4万1千円台に突入し史上最高値を更新したが、その後は3万円台と乱降下している。円安による海外からのオーバーツーリズムが問題となっているが、現在の景気はインバウンドによって支えられているとも言えるかもしれない。印刷業界は、ペーパーから Web へのシフトという大きな流れの影響が最も顕著な業界といえるが、紙媒体の市場規模の縮小と同時に、新たな市場の拡大というチャンスを含んでいることも事実であり、新しい付加価値の創出とシフト、取捨選択が今後の課題となってくる。これまでの行き過ぎた価格競争では生き残れず、仕事の質の向上による競争力の強化と柔軟な対応が求められていくと思われる。物価上昇率に見合う程度の賃金引き上げは必要だと思うが、引き上げは企業の収益悪化を招くことになることから、零細、中小企業への対策と併せて実施していくことが必要。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	令和7年4月より、1トン当たり 2,100 円程度のセメント価格の値上げが、各メーカーから発表された。異形鉄筋の値上げについても耳にするようになり、運賃の値上げも続いている。現在、今年の4月からの値上げ説明に苦慮している段階であり、価格が反映されていない状況での来年4月の値上げを考えるとという違和感が続いている。公共工事に大きく携わっている当組合では、調査機関での設計価格の設定期間が6ヶ月から2ヶ月程度まで短縮され、早々に価格UPが反映される形にならないと、先行き不安な状況が続く。	コンクリート製品製造業
	出荷量は、前月比 97% 、前年同月比 104% 。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業

	<p>総会で組合解散と継続の意見が出た。今年度中に各事業所にて選択し、継続希望者での組合継続となる見通しである。</p>	石工品製造業
	<p>前年同月と比べ、横ばいとなった。萩焼業界の夏場はどうしても売上が落ちる傾向がある為、この時期は秋のシーズンの為の在庫を積む時期となる。その為、材料仕入は増えるが売上が上がらない一番苦しい時期となる。5月の大型連休の現金収入も底をつき、夏の賞与を渡せる現状とは程遠い。一番重要な粘土の確保が難しくなった今、他所の産地にも問い合わせし、何とか萩焼を造り続ける道を模索している。釉薬等の原材料もかなり高騰し、なかなかペイできていない。カタログギフト等に掲載すると、上代を変更する事が難しくなるため、自店の力をつけ卸に頼らない会社づくりをしていく事が目標であり課題である。</p>	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	<p>7月には、「閑散期で仕事量が少なく、何とか、仕事をつないでいる。」という組合員が多かったように感じる。一方で、「忙しいけど残業ができない。」と困っている組合員もあり、残業規制が始まり、苦しんでいる事業所も多い模様。</p>	一般機械器具製造業 下松市
	<p>業況、売上に大きく変動はないが、先納期の仕掛かり経費等で若干資金繰りに影響が出ている。要因として検収予定の装置設備の製作、別クライアント納品案件の着手が重なると同時に、人員不足により既存顧客分の受注品製造を圧迫し外注化の費用増にも繋がった点がある。人手不足の影響は大きく、この先も変わらないと思われる。納期が長めでも受け入れてもらっている。受注量はあるがそれほど多くはない。状況は前月度と比べて好転している組合員もあるが、建設業の2024年問題の残業規制や鋼材等の資材高騰など、昨今の著しい環境の変化の中で設計図面の承認の遅れや頻繁な設計変更が増加の一途をたどっており、看過できない問題となっている。</p>	一般機械器具製造業 防府市
	<p>各業種とも当面の事業量を確保しており順調であるが、人材の確保に苦慮しており、特に、介護、建設、食品加工については切迫している状況。中小企業が大企業と同じような賃上げをすることは至難の業であり、正規、非正規を問わず日本人材を確保することは困難を極めている。販売価格の適正化、下請け企業への適正価格での発注指導が必要。外国人材確保の面でも、低賃金、円安の影響は大きく、特にベトナムでは高賃金の韓国への希望が高く、簡易な手続きで行ける台湾の人気も高くなっている。世界各国との人材確保競争は厳しくなっており、引き続き日本が選ばれる国であることは厳しいと考えられる。従って、賃金対応のみならず早急に多文化共生社会づくりへの対応による魅力づくりが求められる。当面、受け入れ国の多様</p>	一般機械器具製造業 宇部市

	<p>化で人材確保をすることで対応せざるを得ず、今後は多数の人口を抱えるインドネシア、インドからの受け入れが多くなることが想定されるが、現状の賃金環境が継続するといずれは行き詰ることが想定される。また、国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、特定技能制度の高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。</p> <p>大きな好転材料は見られず現状維持が精一杯。さらに最低賃金の引き上げにより、収益が悪化するのではとの不安がある。</p> <p>前月と同様であり、特に変化はない。</p>	<p>一般機械器具製造業 下関市</p>
輸送機器	<p>鉄道車両関係の受注量は 2024 年度以降減少となり、2025 年度は低位に推移の見通し。2026 年度から台湾新幹線の受注見込みがあり回復の兆しは見えるものの確定までは至っていない。人件費や原材料費・電気料等の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予測よりも大幅に受注量が減少し低位で推移しているが、2024 年度後半には復調の見通しが、2025 年度前半にずれ込む可能性がある。</p>	<p>鉄道車両・同部品製造業</p>
卸売業	<p>令和 6 年度は倉庫保管率が高く、安定した倉庫運営が実施できており、出庫した分はほぼ同等量の入庫がある。「いりこ」については状況が悪化するのが早く、現在はほとんど入庫がなく、状況が好転するのを待っている。</p>	<p>乾物卸売業</p>
	<p>漁港の水揚げは、ほぼ前年並みだが、売上と利益は前年を下回った。</p>	<p>生鮮・魚介卸売業</p>
	<p>賃金アップの提案があったが、総合的に考えて組合内ではまだまだ難しいとの声が大半である。</p>	<p>各種商品卸売業 防府市</p>
	<p>商品の値上げが続き売上に影響している。</p>	<p>各種商品卸売業 山口市</p>
小売業	<p>化粧品専門店の売上状況は前年に比べて微増。今月には組合員の閉店もあり、実際には売上の多い店舗と少ない店舗とで大きな開きがあり、特に路面店においては顕著に差があるように感じる。化粧品専門店としての価値を高めていく一方で、地域に根付いた小売り専門店としての価値を高め、お店の魅力に繋げていくことが大事であり、日々のお手入れや方法などでメイクの楽しさや綺麗を提供し、お客様以上の関係を構築していかないといけない。</p>	<p>化粧品小売業</p>
	<p>例年であれば、エアコン販売、取付・修理の需要はお盆までであるが、今年はお盆を過ぎても予約一杯で、大変忙しい。しかし、手間がかかる仕事の方が多く、売上になかなか繋がらない。</p>	<p>機械器具小売業</p>

	7月の売上状況は、前年同月比13.5%減少。人手不足により全店休業日を設定し前年より1日営業日が減少していること、鮮魚・青果等の生鮮商品の入荷量の減少が要因とみられる。原材料価格、電気代、人件費等経費の高騰や人手不足が深刻化しており、収益確保が厳しい状況である。	各種商品小売業 萩市
	7月の供給高は前年同月比94.7%、来店者数は94.3%。酷暑の影響や、昨年とのセール時期のずれもあると思われるが、来店者数、供給高ともに前年を大きく割っている。7月24日土用丑の日の「うなぎの蒲焼」の予約数が昨年より減少した。	各種商品小売業 下関市
商店街	大型の自然災害と異常な猛暑は小売り経済に大きな影響を及ぼす。7月は各地で大雨と猛暑の影響で購買行動が鈍化し、インターネット販売などに大きくシフトした印象が強い。飲食・サービス業も7～8月は停滞気味。輸送や光熱費などのコスト高は続き、決して良い状態とはいえない。一方でコロナ増加の傾向は景気向上に歯止めをかけるが、健康被害を優先するのは当然であり、今後の対策が必要。	岩国市
	51回徳山夏祭りが7月20日(土)に開催された。徳山deckがオープンしたこともあり、かなりの集客で賑わった。徳山deckだけでなく、青空公園でも賑わいをみせた。この動線を利用して企画等を考えれば、もっと商店街にも足を運んでももらえるようになるので、今後企画していきたい。	周南市
	異常な暑さで日中の人出が全くなく、各店、売上が減少していると思われる。青果の価格は大幅に上昇し、入荷量も昨年と比べて減少している。	山口市
	夏のイベント等での人出は多いが、消費は停滞している。街の施設利用見直しは動いているが、商業的な動きはない。	宇部市
	食品等の必需品は売上堅調であるが、買回品は売上減少傾向にある。小売業は、消費志向の多様化、購入チャンネルの多様化で従来のやり方では、通用しなくなっている。	萩市
	消費者の買い控えが続いており、売上は伸びていない。現在所有しているポイントで2倍の商品券を購入できる「ポイントまつり」を7月31日～8月2日まで行うが、例年大好評である。猛暑の影響で買い物客が激減している中、売上が上向きになることに期待する。	下関市
サービス業	美容業界は天候に左右されるが、10年に一度の猛暑といわれるなか、気分転換のためのカットに来店される方もあり、7月は例年通りの忙しさである。	美容業
	客数は増加傾向だが、仕入価格や光熱費の高騰により採算面は変わらない。	理容業

	中国地方における令和6年6月の新車新規登録台数は、対前年同月比10.5%減となり、6ヶ月連続でマイナスの状況。全国計においても7.0%減と、6ヶ月連続でマイナスとなっている。また軽自動車は、中国地方は1.7%減、全国0.7%減と軽は回復の兆候が見られ一層の伸びを期待するところである。また、自動車製作者メーカーの不正事案に伴う生産停止も解除となるなか今後の回復が期待される。一方不安材料として原材料価格等高騰の影響を受け車両価格が上昇傾向にあり、今後の販売に影を落とさないか注視が必要。10月より開始となる「OBD検査」にかかる対象機器購入補助金（国交省が実施）の申請が7月30日から開始されるが、今後、対象機器の購入費用に対し事業者の負担軽減に少なからず寄与することが期待される。	自動車整備業
	7月の売り上げは例年と同じ事業所が多いようである。しかしながら、値上げに踏み切った事業所も多く、そういった点から、集める点数が減っていることが考えられるので、節約志向からくるクリーニング離れが懸念される。一度離れたら元に戻るの難しそうなので、クリーニングと関連して新たな需要（靴や鞆、剣道具、ぬいぐるみなど）を開拓・特化する必要があると考えられる。	普通洗濯業
	求人にも苦戦しており、インスタなどの新しいツールを活用していく。	飲食業
	売上額107.2%、宿泊者数107.9%と前年同月を上回る結果となった。現在、予約が取り辛い状況にあり、インバウンド宿泊者数では、前年同月比79.1%と大きく前年割れとなった。欧米客は41.9%と大きく落ち込む結果となった。	旅館業 山口市
	厳しい暑さの影響もあり入浴客数は横ばい。7月中旬からは少年サッカー等の合宿利用が増加したが、一般の利用者は減少傾向にある。依然として物価高騰、原油高等により、収益状況は減少傾向となった。	旅館業 長門市
建設業	中電への工事申請119件(当支部93件)、前年同月213件(同190件)。太陽光発電への申請30件(前年60件)、オール電化申請61件(前年85件)。LED街路灯への切り替え・新設申請13件(前年26件)であった。前年は、大型アパート工事が複数あったため大幅な件数減少となった。	電気工事業
	日銀によると「公共工事は増加しており建設業は回復している」とのことであるが、現場段階で見ると今年度の秋から令和7年の春までは工事量が少ないと見込まれる。左官工事はほとんどが現場作業であり、雨天等で仕事が出来ない時や仕事が無い時期の補填が難しくなりつつある。	左官工事業

	組合員の官公需落札が順調で安定しており、暑い中であるが忙しくしている。	管工事業
	連日の猛暑により、現場作業が予定通りに消化できない状況。熱中症対応等、作業員の健康管理を重点的に取り組んでいる。	屋根工事業
	依然として小型案件が多く低調で新規見積も少ない状況。顧客からの凶面承諾が遅く工場内の段取りに苦労している。8月から値上げをアナウンスされているものが大変多く苦慮している。値上げの原因としてトラックドライバーの確保難を挙げているものがほとんどで今後の物流の変化が危惧される。	鉄骨・鉄筋工事業
	分譲宅地開発が各地に散見されるが、建物の建設に至らない空地が目立つ。土地価格は安定しているものの、建築コストの急激な上昇により建築費が高騰している。建築資材の高騰で、建築業者もその上昇分を転嫁できず、利潤を著しく圧迫している。	一般土木工事業 柳井市
	7月の受注高は、対前年同月比78.2%。今年度の累計では対前年比149.6%。	一般土木工事業 萩市
運輸業	先月より軽油が少し値上がりをして、いったいいつまで上昇し続けるのか懸念のみしかない。だからと言って、運賃の方も思ったほど値上がりをしていないわけではないので苦しい状況に変わりはない。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関係は、自動車メーカーの生産台数が、前月に比べ若干減少。タイヤメーカーは、前月と同様の生産量の模様。	一般貨物自動車運送業 防府市
	荷物運送量・倉庫保管量ともに増加。特に長距離輸送の案件が少し増加している模様。保管・輸送のセット依頼も増えている。依然として人員は不足しており、人が異動するタイミングが来るので、この時期に雇用を進めておきたい。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+2.1%（令和6年6月1日～令和6年7月20日分）だった。6月1日～30日分は▲7.5%、7月1日～20日分は+21.4%。タクシー業界だけかもしれないが、令和5年6月分が特に良かったために、今年度6月分が減少して見えた面もあるが、7月の20日分を合計して比較しても+2.1%であり、令和5年8月運賃改正で単価は10.61%値上げがあったが、回復傾向は微弱と言わざるを得ない。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。6月分については、周南▲3.54%、下松▲18.4%、光+3.1%、防府市地区が▲4.9%で、組合員の全域では▲3.7%、地区外（員外）▲34.3%、合計▲7.5%（▲1,396千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）や為替によって変動する。燃料単価は、7月分は前月より+1円/ℓになったが、前年よりも+18円/ℓ。マスコミでも話題になっているが、タクシー乗務員は労働	一般乗用旅客 自動車運送業

	<p>条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的危機的に不足している。実働車両が大幅に減少している。乗務員さえ確保できたら、もっと売上が増やせるのだが、という意見も聞くが、日曜や月曜日は大幅に少ない稼働台数でも充分で、配車室の人件費がもったいない位だそうである。出勤した乗務員の稼働率は高いので一人当たりの売上や給料は以前より上昇しているが、稼働台数が少ないため合計売上額が増加しない。固定経費の多い本社経費を差し引くと、タクシー会社の経営はたいへん厳しい模様。</p>	
	<p>7月は取扱量が若干減少したが、全般的には概ね平常通りである。猛暑のうえ、人員不足の状況のなか、現場で働く従業員には感謝している。</p>	港湾運送業
その他	<p>介護事業所では人材不足が慢性化しており、各事業所で取り合いとなっている。そのため人件費は高騰し、介護報酬だけでは厳しい経営状況が続いている事業所が多い。特に、社会福祉法人や医療法人以外の民間企業は厳しい経営が続いている。</p>	介護事業